

中学生及び小学校、中学校の保護者の皆様

TOEFL Primary® の オフィシャルスコアレポート活用法の検討 —英語を実際に使う力を測る 世界基準のテストについて知ることを通して—

大阪教育大学 英語教育部門 准教授
ETS公認TOEFL Primary® / TOEFL Junior® トレーナー
一般社団法人 国際教育英語試験協会 理事
篠崎 文哉



© 2017 Kumon Institute of Education Co., Ltd. (<https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/primary/result/#content>)

目次

1. はじめに	p.2
2. テストの種類と特徴	p.2
3. テスト設計	p.3
3.1. 信頼性	p.3
3.2. 妥当性	p.4
3.3. 実用性	p.6
3.4. 真正性	p.6
4. TOEFL Primary®のテスト結果の活用例	p.7
4.1. TOEFL Primary® STEP 2 オフィシャルスコアレポート	p.7
4.2. オフィシャルスコアレポートリーディングセクション	p.8
4.3. オフィシャルスコアレポートリスニングセクション	p.10
5. おわりに	p.11

1. はじめに

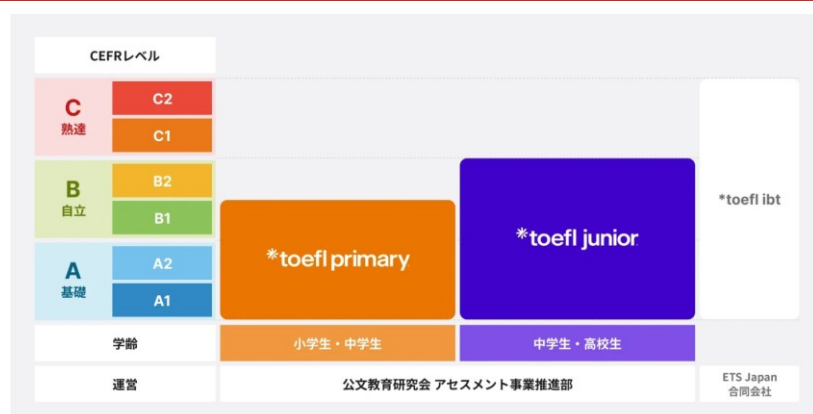
中学生のみなさんは「テスト」と聞くと、何を思い浮かべるでしょうか。おそらく学校で受けている日本の学習指導要領に準拠（依存）した日本基準のテストが最初に浮かんだのではないのでしょうか。では次に、英語の授業で行われるテストにはどのようなものがあるか考えてみてください。カテゴリーなどを無視して列挙してみると、例えば、中間テスト、期末テスト、実力テスト、小テスト、単元テスト、単語テスト、文法テスト、音読テスト、発音テスト、リスニングテスト、スピーキングテスト、リーディングテスト、ライティングテストなどあり、もっと細かく区切れば無制限に出てくるかもしれません。

学校で配付される年間行事予定表には、中間テストや期末テスト、実力テストの日程が書かれていると思います。中間テストと期末

テストはいわゆる定期テストです。では定期テストと実力テストを比較してみると、何か違いはあるのでしょうか。最初に思い浮かんだのはきっとテスト範囲の有無でしょう。定期テストでは、出題範囲が事前に生徒に提示されている一方、実力テストと呼ばれるテストを受ける時、出題範囲は提示されないでしょう。

このように、学校で受けるテストには種類があることがわかります。テストを作成する教員だけでなく、テストを受ける生徒のみなさんも、テストについて理解を深めることで、次への英語学習につなげられるかもしれません。範囲を広げ、多数の国の学習指導要領を参考にして開発された英語の運用能力を測定する世界基準の外部テストも含めて考えてみましょう。

2. テストの種類と特徴



<英語を実際に使う力を測定する TOEFL®ファミリー>

受験者の英語力がどの程度か、CEFRレベルに基づき判定できます。TOEFL Primary®は CEFR A1未満～B1、TOEFL Junior®は CEFR A1～B2レベルまで測定可能です。
©Kumon Institute of Education Co., Ltd.
(<https://www.toefl-junior-primary.jp/about/>)

定期テストと実力テストを簡単に比べてみましたが、ここではもう少し詳しくテストの種類とその特徴を見ていきたいと思います。

定期テストは、いわゆる到達度テスト (achievement test) に分類されます。到達度

テストとは、「一定の学習期間で特定の学習目標にどれだけ到達したのかを測定するテスト」のことです(白畑・富田・村野井・若林, 2008, p.7)。また、目標準拠テスト (criterion referenced test) でもあります。

これは、「学習および指導の目標を設定し、それらの到達すべき目標基準に従って学習成果を測るテスト」のことで(白畑ほか, 2008, p.84)。一方、実力テストは、熟達度テスト(proficiency test)に分類されます。熟達度テストとは、「特定の学習目標やシラバス(syllabus)、学習期間、学習方法などから離れて、学習者が現時点で、どの程度の言語運用能力を持っているのかを測定するテスト」のことで(白畑ほか, 2008, p.245)。また、集団準拠テストでもあります。これは、「個人の成績を、そのテストを受験した受験者全員からなる集団の標準(norm)と比較することによって評価するテスト」のことで(白畑ほか, 2008, p.207)。

隣国で働くため、学ぶために開発されたCEFRと、英語で教え、英語で学ぶ環境におけるコミュニケーション能力を正確に測る目的で開発されたTOEFL Primary®は、この熟達度テストに含まれます。TOEFL®には、TOEFL Primary® STEP1、TOEFL Primary®

STEP2、TOEFL Junior®、TOEFL ITP®、TOEFL iBT®があります。PrimaryからiBTにかけて、徐々に難易度が上がっていきませんが、定期テストのようにある学習期間の中で、どれほど学習した内容が身についているかを確認することを目的としているわけではありません。例えば、TOEFL Primary® STEP2は、世界約50の国と地域の英語を母語としない小中学生を主な受験対象としており、CEFR(外国語の運用能力をレベル別で示す国際標準規格。Pre-A1、A1、A2、B1、B2、C1、C2という段階があり、A1が基礎レベル。)でいうA1～B1あたりに求められる熟達度を測定するテストとなっています。ですので、中学校で学んでいるレベルに近いと思われます。ただし、熟達度テストですので、定期テストのように、「この単語リストから出題される」「この文法事項を中心に学習しておく必要がある」といったような明確な範囲はありません。とはいえ、公式問題集はありますので、おおまかな雰囲気は事前につかめるかと思います。

3. テスト設計

定期テストにしる、TOEFL Primary®にしる、思いつきで問題を作成しているわけではありません。テストをするというのは、つまり何らかの反応を引き出して評価することです。テスト作成に際して、まずはテストの全体像を考えることが普通です。例えば、どういう力を測定したいのか、どのように測定するのか、測定するのに何問必要か、テスト実施後にどのように採点するか、などを検討しています。ここでは、TOEFL Primary® STEP2を例にもう少し詳細にテストについて

考えてみましょう。

3.1. 信頼性

テスト検討をする観点の一つに、信頼性というものがあります。簡単に言うと、そのテストで何度測っても同じような結果が出るということです。テスト受験者からすると、複数回同じテストを受けたとき、だいたい同じ結果が得られるかということです。

もしあなたが、同じときに2回TOEFL Primary® STEP2を受けたとして、片方の

スコアが200点で、もう片方が230点だったとしたら、どう思いますか。たまたま運よく高得点が取れたと思うかもしれません。では、5回受けてすべての点数が極端にバラバラだったらどうでしょうか。おそらくテストの精度を疑うでしょう。実際には、人ですから、その時々によって頭の回転の調子が良いということもあれば、体調が優れないということもあります。連続でテストを受ければ、当然疲れます。わからない問題に対して、当てずっぽうで回答することもあるかと思います。様々な要因が絡みますので、全く同じスコアが連続して続くということはほとんどないでしょう。しかしながら、そのぶれ幅が極力小さくなるように、TOEFL®などのテストは丁寧に設計されているわけです。

信頼性を高める工夫の一つとして、項目の数を増やすということが挙げられます(静, 2015)。TOEFL Primary® STEP2は、リー

ディングとリスニングの2部構成となっており、それぞれ37問と39問あります。セクションごとで測る力が異なりますが、各セクションに複数の問題が含まれています。TOEFL Primary®を受験すると、スコアレポートが発行されます。もし受験したテストの信頼性が低かったら、そのスコアレポートも信用できません。逆に、信頼性が高いと、自分の強みと改善点を知ることができます。TOEFL®のテストを作成しているETSは、信頼性や妥当性を高めるための努力を重ねており、多くの研究者の調査も公表しています(ETS, 2022)。

3.2. 妥当性

では、妥当性とは何でしょうか。TOEFL Primary® STEP2では、以下のような力を測ろうとしています(©Kumon Institute of Education Co., Ltd. <https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/primary/result/>)。

ETS公認 TOEFL Primary® Step 2 リーディングセッション(115点満点)パフォーマンス解説			
CEFR	スコア	Lexile®	あなたの英語力(ディスクリプタより)
B1	115	750L	★★★★★ テスト内容を大変良く理解し運用できている。 <ul style="list-style-type: none"> 物や場所、人、動作、考えを描写する一般的な単語や、あまり一般的でない単語を幅広く理解することができる。 複雑な文や段落、長めの文章の意味を理解することができる。 複数の文や段落に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報を推測したり、要旨を特定したり、知らない単語の意味を理解することができる。 長めの文章から特定の情報を理解することができる。
	114		
	113		
A2	112	550L	★★★★ 簡単なストーリーや、年齢に合ったアカデミックな文章を理解している。 <ul style="list-style-type: none"> 物や場所、人、動作、考えに関する一般的な単語を幅広く理解し、あまり一般的でない単語も多く把握することができる。 複雑な文や段落の意味を理解することができる。 複数の文や段落に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報や要旨、知らない単語の意味を推測することができる。 文章から特定の情報を理解することができる。
	111		
	110		
	109	325L	★★★ 簡単なストーリーを理解し、年齢に合ったアカデミックな文章も理解し始めている。 <ul style="list-style-type: none"> 物や場所、人、動作、考えに関する一般的な単語や、一部のあまり一般的でない単語を理解することができる。(例: ring (指輪)、adventures (冒険)、whisper (ささやき)、double (2倍)) 複雑な文の意味を理解することができる。(例: This is a friendly thing to do when you say goodbye. (これはさよならという時にする、友好的なしぐさです。)) 長めの文や違う文に記述されている情報をつなぎ合わせて、情報を推測したり、要旨を特定したり、知らない単語の意味を理解することができる。 文章から重要な情報を見つけることができる。
	108		
	107		
A1	106	125L	★★ 短い説明を理解し、標示やメッセージ、ストーリーに記述されている情報を理解している。 <ul style="list-style-type: none"> 一般的な単語や日常的な表現を理解することができる。(例: play a game (ゲームをする)、go to a museum (博物館へ行く)、wave goodbye (さよならと手を振る)) 現在や過去の出来事の簡単な説明を理解することができる。(例: The mouse is on top of the table. (テーブルの上にネズミがいる。)) 身近なテーマの単語や文の関連性を認識することができる。(例: food (食物)、fruit (果物)、strawberries (イチゴ)、rain (雨)、sky (空)、clouds (雲)、movie (映画)、again (再び)) 簡単な文章を関連づけて考えることができる。(例: Clouds are in the sky. (空に雲が浮かんでいる。)) Rain comes from them. (雨はそこから降ってくる。)) Sometimes they cover the sun. (時々太陽をおおう。))
	105		
	104		
Below A1	100	BR 125L	★ 一部の基本的な単語を認識し始めている。 <ul style="list-style-type: none"> 視覚的な情報が与えられれば、基本的な単語を認識することができる。

ETS公認 TOEFL Primary® Step 2 リスニングセクション(115点満点)パフォーマンス解説

CEFR	スコア	あなたの英語力(ディスクリプタより)
B1	115	貴貴貴貴 テスト内容を大変良く理解し運用できている。 <ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマや設定、動作を描写する、使用頻度の低い単語を理解することができる。
	114	<ul style="list-style-type: none"> 知らない単語や一部の慣用表現を含むメッセージやストーリーを理解することができる。
	113	<ul style="list-style-type: none"> ストーリーやアカデミックな会話に含まれる情報をしっかりとつなぎ合わせて、意味を推測することができる。 長めの文章から特定の情報を理解することができる。
B1	112	貴貴貴貴 会話や簡単なストーリー、年齢に合ったアカデミックな会話を理解している。 <ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマや設定、動作を描写する、使用頻度の低い単語を理解することができる。
	111	<ul style="list-style-type: none"> 知らない単語や一部の慣用表現を含むメッセージやストーリーを理解することができる。
	110	<ul style="list-style-type: none"> ストーリーやアカデミックな会話に含まれる情報をしっかりとつなぎ合わせて、意味を推測することができる。 長めの文章から特定の情報を理解することができる。
A2	109	貴貴貴 基本的な会話や簡単なストーリーを理解している。年齢に合ったアカデミックな会話も把握し始めている。 <ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマや設定、動作を描写する、あまり一般的でない単語を理解することができる。(例: pocket、pot、pour (注ぐ)、lamp (ランプ)、branch (枝) など)
	108	<ul style="list-style-type: none"> 会話における返答を理解することができる。 情報が明確に述べられていないメッセージを理解することができる。
	107	<ul style="list-style-type: none"> 情報をつなぎ合わせて、メッセージやストーリー、情報の入った文章の要旨やテーマを推測することができる。 長めの話し言葉に点在する情報を総合的にとらえることができる。
A1	106	貴貴 基本的な会話やメッセージを理解し、ストーリーや情報の入った文章を把握し始めている。 <ul style="list-style-type: none"> 日常会話で使用される一般的な表現を理解することができる。
	105	<ul style="list-style-type: none"> 聞き覚えのある単語を使用し、重要な単語を繰り返し述べた、簡単な指示を理解することができる。
	104	<ul style="list-style-type: none"> 重要な情報を繰り返し述べたメッセージの目的を理解することができる。 重要な情報を明確にかつ繰り返し述べた簡単なストーリーの要理を理解することができる。
Below A1	100	貴 話し言葉の物、場所、人など、少数の聞き覚えのある単語を認識し始めている。 <ul style="list-style-type: none"> 視覚的情報が与えられれば、聞き覚えのある単語を理解することができる。

ここに挙げられていることができるかどうかを測るために、問題が作成されているということです。テストが測ろうとしている知識や能力をしっかりと測ることができているとき、そのテストは妥当性が高いと言います。

さきほど、信頼性が高いと強みと改善点を知ることができる述べましたが、実はそれは妥当性が担保されていることが前提となり

ます。何回かテストを受けて、仮にどれも同じようなスコアが算出されたとしても、測るべき力が測られていないとそのスコアを適切に解釈できません。

ここでTOEFL Primary® STEP 2のリーディングのサンプル問題(Kumon Institute of Education Co., Ltd, 2018)を一つ見てみましょう。

There are many ways to communicate. People communicate with other people not only by speaking and writing but also by making faces and moving their arms and heads. Animals communicate too. For example, blackbirds make loud noises to communicate danger. Bees use a special dance to explain where to find food. Elephants move their ears up and down when they are excited.

Question

What is the reading about?

- (A) How animals and people are different
- (B) How animals and people communicate
- (C) How animals and people move their bodies

Answer (B)

When do bees dance?

- (A) When they are excited
- (B) When they are in danger
- (C) When they are telling others about food

Answer (C)

コミュニケーションというテーマであり、その中身もアカデミックなものとなっています。また、設問も大意把握をするものや、特定の箇所を読み取るようなものがあり、文章が理解できているかを測る問題となっていることがわかります。つまり、先ほど示した測りたい力と合致しているということです。

3.3 実用性

ただ、どれだけ妥当性の高い問題を作ったとしても、そのテストが実施可能なものでなければ意味がありません。テストの作成や実施、採点などが現実的に可能なのかについて検討する観点が実用性です。例えば、信頼性を高める工夫の一つとして、項目の数、つまり問題数を増やすということを挙げましたが、では1回のテストに何千もの問題が含まれているとしたらどうでしょうか。妥当性の高い問題をそこまで多く用意するのは困難ですし、受験者からするとすべて回答するのにどれだけの時間と労力がかかるのだろうと心配することでしょう。

現実には、テスト実施にかけられる時間の制約があることが多いですので、その中で信頼性と妥当性をできる限り高める努力をしています。つまり、テスト作成者、採点者、受験者など様々な観点を考慮してテストが実施されていることとなります。受験者のみなさんには、スコアレポートをもとに学習の成果

を振り返ってほしいですが、絞られた問題数であっても強みや改善点が見えてくることがかと思えます。

3.4 真正性

英語の先生は、英語学習者に英語を使えるようになってほしいと思っています。使えるようになるためには、語彙力や文法力といった基礎力が必要です。語彙問題や文法問題を解くことで、身につけている力を確認することがあります。

しかし、問題設定によっては、あまり現実世界では出くわさないものがあります。例えば、正頭(2018)は、「『駅で流れるアナウンスを聞き取り、何番ホームの電車に乗ればいいかを答えなさい』というようナリスニング問題は真正性が高く、『空欄補充』のような現実生活の中ではおそらくないであろう状況は真正性が低いと表現できます」(p.19)と説明しています。つまり、真正性とは現実に近い状況の問題設定ができているかを指しています。

横川博一先生のレポートでは、TOEFL Primary® STEP1の問題集にある問題を例に、ハサミや図形など身の回りにあるもの、つまり「生活語彙」が多く出現していることに触れています。

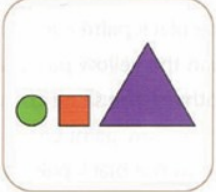
Look at the picture. Read the words.
Which word goes with the picture?



(A) Scissors
(B) Marker
(C) Desk

(A) はさみ
(B) マーカー (ペン)
(C) 机

Look at the picture. Read the sentences.
Which word goes with the picture?



(A) The purple triangle and the orange square are the same size.
(B) The green circle is next to the purple triangle.
(C) The triangle is the biggest shape.

(A) 紫色の三角形とオレンジ色の正方形は同じ大きさだ。
(B) 緑色の円は紫色の三角形の横にある。
(C) 三角形が一番大きい形だ。

(『はじめてのTOEFL Primary®テスト問題集 Step 1』p.16, p.37)

さらに、リスニング問題を取り上げ、そこでは小中学生にとってはやや高度な文法事項

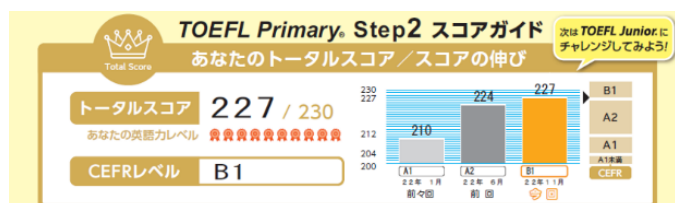
が含まれているが、自然なやり取りになっていることが説明されています。言葉を引用すると、「一見やさしそうに見える問題も、語彙や文法の単なる暗記や付け焼刃の対策では到底太刀打ちできるものではないようです。問題を少し分析しただけでも、子供たちが学校生活や社会生活で経験するごく普通の場面で、自然なやりとりの中で外国語としての英語を生きたことばとして学ぶことが望ましいのだと訴えかけているように思います。」(p.5)と述べられています。TOEFL Primary®では、まさしく真正性が担保された問題が多く含まれているということです。

真正性が低くても学習には効果的なものは多くありますので、学習の過程として必要だと思います。ただ、そこに留まらず、英語を実際の場面で「実際に使う」ことを念頭に学習を進めてほしいと思います。

4. TOEFL Primary®のテスト結果の活用例

4.1 TOEFL Primary® STEP 2 オフィシャルスコアレポート

様々な観点からテストについて理解を深めてきましたが、テストの質が高ければ、その分、テスト結果もしっかり見る意義が出てきます。ここからは、TOEFL Primary® STEP2のスコアレポート例を参照しながら、その見方を確認したり、活用法を検討したりしていきます。



スコアレポートの最初には、トータルスコアとスコアの伸びが書かれています。例では、230点中227点だったことがわかります。非常に高いスコアです。定期テストでもそうですが、テストを受ける限りは、高い点数を取りたいと思いますし、実際に高い点数が取れると嬉しいです。しかし、テストを受けて、結果が返却されて点数を見たらそこで終わりというのは、テストの使い方としてはもったいないのです。特にTOEFL®では詳細にテスト結果を示してくれますので、細部まで確認した上で、次の学習につなげられるよう自分なりに分析すべきです。

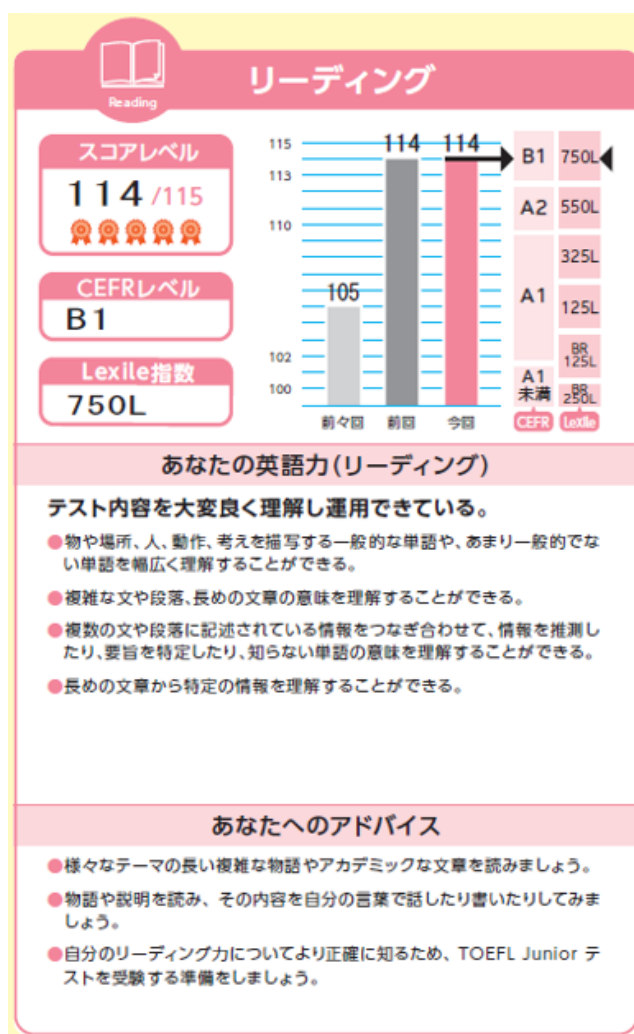
では、トータルスコア以外のところに目を向けてみましょう。今回は、CEFRでいうところのB1というレベルでした。これまでに複数回受験していれば、過去のスコアとの比較がなされます。上記の例では、2022年1月には210点(A1)、5か月後の6月には224点(A2)、そして今回11月では227点(B1)となっています。グラフで数値の伸びを感じると、モチベーションにつながると思います。

どのようにスコアが伸びたか見てみましょう。1回目から2回目で大きくスコアが伸びていることがわかります。継続的な努力の結果だと考えられます。一方、2回目から3回目(今回)では、あまり伸びが見られません。努力が足りなかったのでしょうか。それは受験者本人が最もよく知るところではありますが、努力不足とは限りません。満点またはそれに近いスコアを取得した場合、あなたの力を測りきれない可能性があります。小学1年生が最初に習う足し算や引き算の問題を中学生が解いたら100点を取れると思います。100点ですので、もう学ぶことはないのでしょうか。当然ですが、そうではありません。中学レベルの数学の問題であれば、100点を取るのなかなか難しいと思います。仮に70点だったとしたら、できている部分は多いですが、確実にできていると言えない部分もそれなりにありそうです。このことは、スコアの算出方法が異なるTOEFL Primary®でも同じことが言えます。つまり、なるべく自分のレベルに合ったテストを受けた方が、自分のことをより正しく知ることができ、次の学習に生かしやすいのです。そういうこともあり、実際に例の中でも「次はTOEFL Junior®にチャレンジしてみよう!」と次の段階に移ることを勧められています。なお、こういった

スコアの伸びは、前述した通り、信頼性や妥当性が高くなければ比較する意味はあまりありません。

4.2 オフィシャルスコアレポートリーディングセクション

次に、リーディングの結果を見てみましょう。さきほどと同じように、CEFRレベルや過去のスコアからの変化が掲載されています。



これらに加えて、Lexile指数というものがあります。MetaMetrics Inc.(2022)では、Lexile指数(Lexile Framework for Reading)は、読解力とテキストの複雑さの両方を同じ発達段階尺度で測定する科学的アプローチだと説明されています。自分のLexile指数を知ることができれば、そのレベルに適した本などの

テキストを探して読み、リーディング力を効率よく伸ばすことができます。自分のLexile指数のマイナス100Lからプラス50Lまでが目安となっています。今回の例では、自分のLexile指数は750Lですから、選ぶテキストは650L～800Lとなります。テキストを探す方法は色々ありますが、スコアレポートでは、以下のような説明があります。

5 Lexile®指数(レクサイル指数 リーディングのみ)
読書能力と英語の本の難易度を表す指数です。
下の専用サイトからあなたの「読む力」にぴったりの
英語の本を見つけることができます。
※Lexile®はアメリカMetaMetrics社の商標です。

専用サイト (<https://www.toefl-junior-primary.jp/support/lexile/>)では、さらにレクサイルに関する詳しい情報、および、自分のLexile指数と興味のある分野の記事や本の検索方法を紹介しています。(ただし、本当に自分のレベルに適しているかは、テキストの中身を実際に少し見て確認してください)。テストスコアに加え、Lexile指数の変化にも着目し、リーディング力向上に役立ててほしいと思います。

さらに、「あなたの英語力(リーディング)」では、今回のテスト結果から、現在リーディングにおいて何ができるのかを示しています。自分の能力を客観的な記述から省察し、分析することは学習の過程において非常に大切です。何ができて、どこを改善する必要があるのかを建設的に検討することができます。

そのヒントとなるのが、「あなたへのアドバイス」の欄です。ここでは例として、「様々なテーマの長い複雑な物語やアカデミックな文章を読みましょう」ということについて解釈してみます。TOEFL®では、

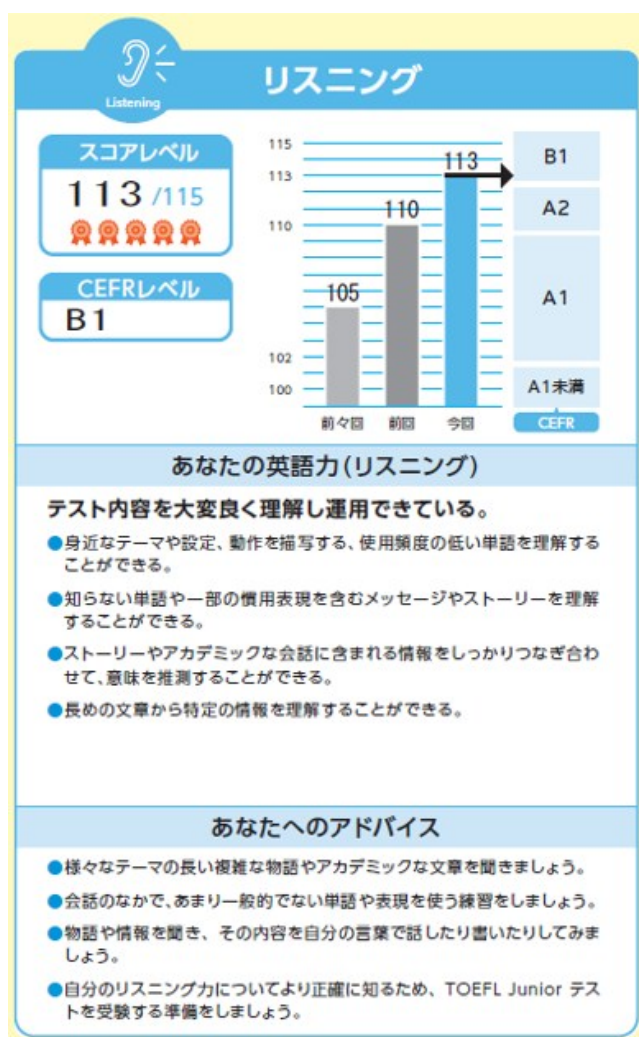
大きく「日常生活、コミュニケーション」「指示文」「アカデミック」が問題の構成要素となっており、そのうちのアカデミックの比率が、TOEFL Primary®よりTOEFL Junior®などの上位テストになるほど高くなっていきます。

TOEFL®では、アカデミック・リーディングは「論文・教科書等専門書の記述スタイルやフォーマット、語句を理解する。」とされています。そもそもTOEFL Primary®は、「主に、小学生、中学生の日常生活での英語コミュニケーションや、学校の授業や教科書など、親しみのあるシチュエーションでの英語能力測定」をねらいとしていますので、受験者のボリュームゾーンにとっては、学校で学んでいることを適切に積み重ねて、さらに身の回りのことに関心を持ち、語彙力等を強化していくことで、高いスコアが取れると考えられます。しかし、今回の例では、114/115という極めて高いスコアでしたので、「自分のリーディング力についてより正確に知るため、TOEFL Junior®テストを受験する準備をしましょう。」という助言がなされているように、より高いレベルの学習をしてはどうかと提案されています。

様々な学習方法がありますが、日常的に文章を読むというのは、やはり効果的です。学習全般に言えますが、継続させることが多くの人にとっての課題です。リーディング力も一朝一夕では伸びません。楽しいことや、力がついていることが実感できることが大切だと思います。学校の授業での学習に加え、授業外でも例えば多読を行うのがよいでしょう。

4.3 オフィシャルスコアレポートリスニングセクション

続いてリスニングの結果も見てください。こちらは、トータルスコアと見方は同じです。「あなたへのアドバイス」を見てみると、「会話のなかで、あまり一般的でない単語や表現を使う練習をしましょう。」というものが入っています。



リスニング力の強化には、音声を聞く、聞き取ろうとする練習はもちろん効果的だと思いますが、それ以外にも実際に英語を使うというのも意味があると考えられます。特に、アドバイスにあるように、さらに高いレベルの単語や表現を自分が直接関わる文脈の中で使っていくことで、それらの使い方の定着に

つながると思います。それはハードルが高いと感じる人については、もしこれまで十分と言えるほど音読を行ってこなかったのであれば、ぜひ今からでも音読を継続してやってみてほしいと思います。音読は、数多くの研究によって言語学習の様々な方面に効果があると報告されており、リスニング力もその一つです。

次の学習へいかにつなげられるのかを自分なりに検討することが大切です。どのような学習方法が効果的なのが自分ではわからない場合は、先生に尋ねるとよいでしょう。その際、自己分析した結果とともに伝え、より具体的なアドバイスをもらえると思います。

5. おわりに

本レポートでは、テストについての理解を深めることで、スコアレポートの意味や活用法を考えました。日本基準の定期テストでも同じことが言えますが、何点取れたかというのは受験者として重要である一方、そこだけを見て、結果を次の学習に活用しないのは非常にもったいないです。

英語の知識量を測定する定期テストと英語を実際に使う力を測定するTOEFL Primary®は種類の異なるテストですが、世界基準のTOEFL Primary®が学校で受けている英語

学習と全く関係がないかと言え、そうではないことは受験したことのある人なら実感できたかと思います。英語の知識量を測る定期テストを利用して学習の積み重ねと振り返りを行い、その時点での英語を実際に使う力を測るTOEFL®を用いて、学んだ知識を使えているのかの自己分析を行ってほしいと思います。TOEFL Primary®のオフィシャルスコアレポートは、自分の分析に役立つだけでなく、具体的な学習につなげるための先生とのコミュニケーションツールにもなるでしょう。

英語力の全体像：知識と運用力のバランスが未来をつくる

英語の知識を土台に、実際に使う力を伸ばすことで、真の英語力につながります。



● 主な英語テストの特徴 (測定の傾向と目的)

- ① **日本基準**：日本の学習指導要領に準拠（依存）した知識量（語彙・表現・文法など）を中心に測るテストの例
英検/GTEC/定期テストなど



- ② **世界基準**：多くの国の英語運用能力の基準を参考に実際に使う力（理解・表現・コミュニケーション）を重視して測るテストの例
TOEFL Primary・Junior・iBT/IELTS など



知識を増やしなが、
「使う経験」を重ねることが
真の英語力につながります！

※ 同じCEFR値でも①と②では、測る力が違う為、イコールではない。

※ 隣国で働く為、学ぶ為に開発されたCEFRと英語で教え、英語で学ぶ環境におけるコミュニケーション能力を正確に測る目的で開発されたTOEFL Primary・Junior・iBT/IELTSの方が、親和性が高いと考えられる。

参考文献

- 静哲人 (2015). 『英語テスト作成の達人マニュアル』 大修館書店.
- 正頭英和 (2018). 『6つのアイデア×8の原則で英語力がぐーんと伸びる!英語テストづくり&指導アイデアBOOK』 明治図書出版.
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 (2008). 『英語教育用語辞典』 大修館書店.
- 横川博一 「TOEFL Primary®やTOEFL Junior®は『対策』が可能か―問題の本質を見抜いて確かな英語運用能力を―」 ダンケゼア.
- Kumon Institute of Education Co., Ltd. (2018). 「TOEFL Primary® Step2 サンプルテスト」
https://gc-t.jp/sample_test/primary/step2/lp4-2.html
- Kumon Institute of Education Co., Ltd. (2022). TOEFL® family research program.
<https://www.ets.org/toefl/research/reliability-validity.html>
- MetaMetrics Inc. (2022). LEXILE framework for reading.
<https://lexile.com/educators/understanding-lexile-measures/>

関連著作レポート

- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーリーディング編』
- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーリスニング編』
- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかースピーキング編』
- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーライティング編』

著者紹介

篠崎 文哉 (Fumiya Shinozaki)

大阪教育大学 多文化教育系教員養成課程英語教育部門・准教授

ハワイ大学マノア校卒業 (Second Language Studies, 学士)、大阪教育大学大学院教育学研究科修了 (教育学, 修士)、関西学院大学大学院教育学研究科修了 (教育学, 博士)。

大阪教育大学附属天王寺中学校教諭を経て、現職。

専門領域は、英語教育学。近著に、「Integrating face-to-face instruction and asynchronous communication to foster community of inquiry in English learning」 (Language Teaching Research) や「Social presence and other individual differences in asynchronous English communication」 (International Journal of Applied Linguistics) などがある。

中学校英語教科書『NEW CROWN English Series』(三省堂) 編集協力委員。これまでの研究業績やその他の活動については、<https://researchmap.jp/shinozaki.f>を参照。

MEMO

